



「ピッコラーレ」とは

ピコ(「おへそ」「中心・核」を意味するハワイ語)とコッコラーレ(「寄り添う」を意味するイタリア語)を組み合わせた造語です。相談窓口や相談支援員が、たった一人で漂流しなけりなかつた相談者にとって安心でほつとできる潮溜まりのような居場所でありたいという想いを込めています。

団体概要

団体名称

認定NPO法人 ピッコラーレ

団体ヒストリー

2015年 9月	助産師6名、社会福祉士1名で任意団体として「にんしんSOS東京」を発足
2015年12月	妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」を開始
2016年 3月	一般社団法人にんしんSOS東京を設立
2018年11月	特定非営利活動法人ピッコラーレ設立
2019年 4月	全ての事業を一般社団法人にんしんSOS東京からピッコラーレに移管
2020年 6月	妊婦のための居場所づくりprojectHOME第1号「ぴさら」受け入れ開始
2022年12月	認定NPO法人を取得

Piccolare Annual Report 2022

認定NPO法人ピッコラーレ 2022年度活動報告書

発行 2023年9月

認定NPO法人 ピッコラーレ

〒171-0021 東京都豊島区西池袋5-10-24深野ビル2F


050-3134-4479


info@piccolare.org


<https://piccolare.org>



project HOME


<https://home.piccolare.org/>













絵・相野谷 由起

認定NPO法人ピッコラーレ 2022年度活動報告書

Piccolare Annual Report 2022



認定NPO法人
ピッコラーレ

「にんしん」が困りごとになる 社会のその先へ

代表理事 中島 かおり

お待たせいたしました！
2022年度の活動報告書をこうしてまたみなさんにお届けできることをピッカラーレのメンバー一同、とても嬉しく思います。

2022年12月、にんしんSOS東京は8年目を迎えました。開設以来365日休むことなく窓口を開き続けることができたのは、ピッカラーレの活動に心を寄せ、支えてくださるみなさんのおかげです。いつもありがとうございます。心から感謝申し上げます。

2022年度、にんしんSOS東京の窓口では、緊急性が高く難しい判断が必要になることが何度もありました。初回相談から何度もやり取りを続けようやくお会いできた方が、面談の最中に陣痛が始まりそのまま一緒に病院に駆け込み、ギリギリのタイミングで無事に出産となって相談員みんなでホッと胸を撫で下ろしたことも。ハラハラする出来事が次々に起こる中、本人だけでなく、私たちも選択と決断の連続で、その度にどうしたらいいのか迷い、悩みながら目の前の相談と向き合いました。

妊婦を孤立させない、漂流させないため、「ないなら作ろう」、そう考えて始まった若年妊婦の居場所「びさら」も4年目に入りました。当たり前だと考えられている妊娠出産の制度やケアが、時には「びさら」にいる彼らを追い詰めてしまうことを知り、自分たちが考える「当たり前」を変化させる必要に迫られ、その度に戸惑った毎日でした。また、利用者のほとんどが10代を占め、壮絶な背景を持ちながらなんとかこども時代を生き延びてきた彼らの隣で私たち自身がどう在るのか、そんな問いを重ねる日々でもありました。

これらの現場運営と並行し、研修や講演、政策提言を通じて、これまでともすれば「透明人間」にされてきた方々の声を可視化し、市民や行政に届け続けた1年でもありました。

大変な1年だった！というばかりではありません。変化の兆しが見えてきた1年でもありました。そのひとつが「妊産婦等生活援助事業」です。この事業は、「びさら」の実践がモデルとなり、令和6年度に予定されている児童福祉法改正の中で新しい制度として位置付けられることになっています。2022年度は同様の取り組みをする全国の仲間とのネットワークも生まれました。この制度がどの地域でも利用しやすいものになるよう、一緒に声を上げていくことを計画しています。

とはいえ実際には、制度や法律だけで「にんしん」が困りごとになる社会を変えることはできません。

依然として緊急避妊薬のOTC化も叶わず、中絶薬へのアクセスの課題や包括的な性教育へのバックラッシュも起きている中、性と生殖の健康と権利、sexual reproductive health and rightsをどうしたら大切にすることができる未来がくるのでしょうか。

私たち一人ひとりが妊娠出産のあらゆる場面での権利の主体であり、それぞれの選択が尊重され、「自分の身体は自分で決める」ことができる社会にはまだ遠く途方に暮れるような気持ちにもなります。

具体的な伴走支援をしながら、社会の空気やひとりひとりの眼差しを妊婦に優しいものに少しずつ変化させていくのはとても難しい事ではありますが、「にんしん」が困りごとになる社会のその先に向けて、私たちはこれからも歩みを止めるわけにはいきません。

妊娠中から産後1ヶ月ほどの期間のソーシャルワーク、居場所やケアの提供にとどまらず、地域での生活を始めた元相談者さんやその子どもたちのアフターケアのニーズにどう応えるかなど、4つの事業の中で発見した新たな課題への挑戦が今後も続きます。

こういったピッカラーレ全体の事業にかかる費用は立ち上げ当初から比べ大きく増加し、ここまでの歩み、そしてこれからの歩みの全ては、ピコサポ(マンスリーサポーター)や賛助会員、法人会員の皆様のご寄付によって支えられてきました。

制度の狭間に取り残される方を継続的に支援するには、持続可能な運営を目指す必要があります。そのためのひとつのアクションとして、ピッカラーレは東京都へ認定申請を行い、2022年12月6日付で認定NPO法人となりました。これをきっかけにさらにご寄付で支えてくださる仲間を集め、ビジョンの実現を目指します。

「びさらを作ってくれてありがとう」
ある卒業生がぼつりと言ったこの言葉をみなさんはどのように受け止めるでしょうか？

ひとりぼっちで取り残されている方にとってみなさんの存在は、社会への信頼につながります。自分の持つ力を信じ、応援してくれている人がどこかにいる、「ここにいていいんだ、生きていていいんだ」そんなふうに見える未来を一緒に作りましょう。

「にんしん」が困りごとになる社会のその先へ。
「にんしん」をきっかけに、誰もが孤立することなく、自由に幸せに生きていくことができる社会を。

これからもピッカラーレへの応援をどうぞよろしくお願いします。

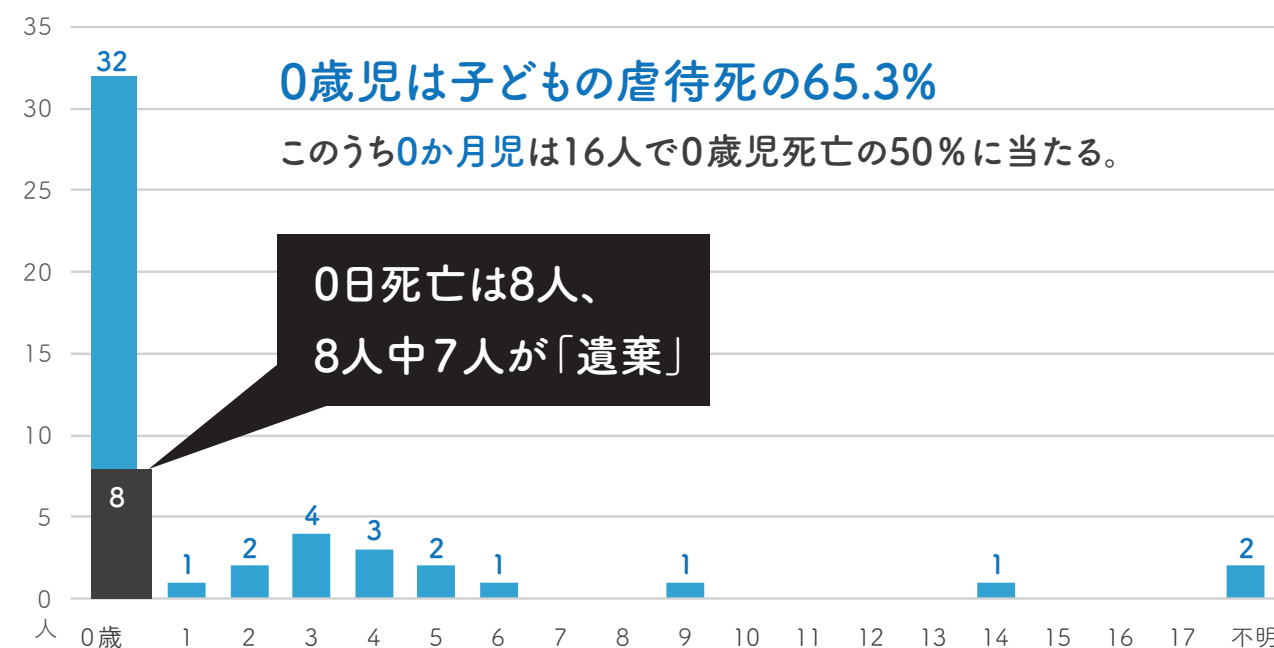


ピッカラーレが取り組む4つの事業

妊娠葛藤相談窓口に寄せられる声を聞くことによって見えてきた課題解決へ向けて、相談支援事業のほか3つの事業を展開。

1 4つの妊娠葛藤相談窓口を運営				電話	365日 開設
相談支援事業				16-23時	
				メール	
				24時間	
				Twitter	にんしんSOS東京のみ 週3日/2時間
				にんしんSOS東京 2015年12月より 自主事業として開設	
				PUPU(プープー) 2020年2月より 中絶後相談窓口	
				にんしんSOS埼玉 2018年7月 埼玉県より受託	
				にんしんSOSちば 2019年1月 千葉県より受託	
2 居場所事業					
居所なし若年妊婦等への 安心・安全な居場所づくり事業 包括的性教育の普及					
3 研修・啓発					
妊娠葛藤相談窓口の普及 妊娠葛藤相談支援員のスキルアップ					
4 調査研究・政策提言					
妊娠葛藤を社会課題として 可視化するために、 白書作成・政策提言・要望書の提出など					

「にんしん」が困りごとになるとき



子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会 第18次報告より）

このグラフは、2020年度に確認することができた子どもの虐待死（心中以外）を年齢別に見たものです。2020年度は49人の子どもが虐待によって亡くなりました。ほぼ毎週、ひとりの子どもが亡くなっていることになります。

子どもの虐待死49人のうち32人が0歳児。このうち半数の16人が0か月死亡。0か月死亡のうち、産まれたその日に亡くなった子どもは8人でした。

子どもの虐待死の調査が始まってから18年になりますが、この間ずっと子どもの虐待死で一番多いのは0歳児であり、0か月0日死亡がその約半数を占めている状況は変わりません。

0日死亡で加害者とされるのは多くが実母です。そのほとんどは、誰にも相談できず、たった一人で自宅のトイレや風呂場など医療機関以外の場所での産産をしていました。その背景には、経済困窮やパートナーの不在、妊娠の自己決定を阻む社会制度の不備、そして、社会からの孤立などがありますが、妊娠による困りごとを一人で抱え込まず、誰かに相談できていたなら、これらの事件は起きなかったかもしれません。

「自分も悪かったから」
「誰かに相談していいとは思っていなかった」
「自分の体に起こったことだから、自分で何とかしないとけないと思った」

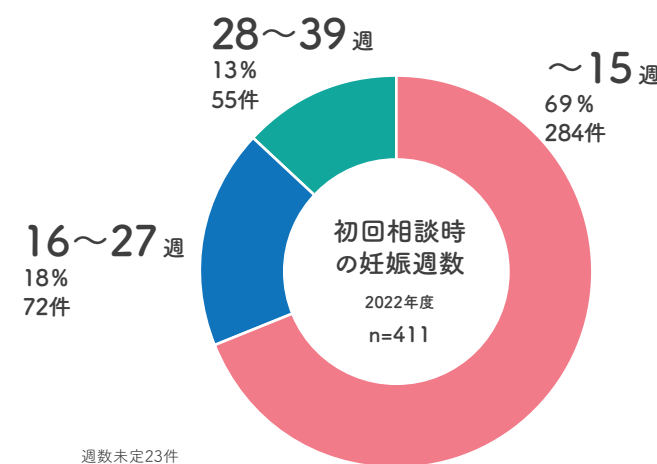
「にんしんSOS東京」に届く、これら相談者の声を耳にするたびに、私たちはこんなにも「助けて」が言いにくい社会の中で生きているのだと思い知らされます。

「赤ちゃんや子どもへの虐待や殺害への罪が軽すぎない？といつも思います」「このようなことをする人には今後一生妊娠しないようにして欲しいです」

これは、ある新生児遺棄事件のニュースに付けられたコメントのうち、たくさんの「いいね」がついたものの抜粋です。なぜ遺棄をするところまで追い込まれてしまうのかを見つめようとするまなざしは、ここにはありません。あるのは、妊娠当事者の「自己責任を問う」暴力的な声。でも、このコメントは、私たちの社会そのものの声なのではないか、とも思うのです。

「助けて」を言うには、助けてと言える「社会のまなざし」が必要です。

「にんしんSOS東京」の相談窓口開設以来ずっと変わらず見えているものがあります。それは、にんしんが「困りごと」になってしまう社会です。



これは、2022年度「にんしんSOS東京」につながった際に、妊娠確定している相談者の妊娠週数をグラフにしたものです。相談者の3人に1人は妊娠中期～後期に入ってから相談でした。いつ産まれてもおかしくない状況の妊娠36週以降の相談は9件あります。もし、この9人が私たちの窓口につながっていなかったら、どうなっていたのだろう、と思います。

「お金がないので病院に行っていません」
「きょう泊まる場所がありません」
「気がついたらお腹がおっしくなりました」
「仕事での妊娠なので相手が誰だかわかりません」
「もう死ぬしかないと思っていたけど、どうせ死ぬなら相談してからと思って」

相談メールはこんな言葉であふれています。経済格差や情報の格差、また、虐待や暴力などが与えるたくさんの理不尽、そして自己責任を問う声が、その人を不当に生きにくくさせ、にんしんを困りごとにしてしまう。にんしんにまつわる困りごとは、社会がつくりだしている困りごとだということに、相談窓口に立つたび、気づかされ、突きつけられる思いがします。

それでも、私たちの社会は「にんしんが困りごとになる」ことに、少しずつ気づきはじめてはいます。若年妊婦支援や経済困窮を抱えた妊婦支援の制度も作られ、私たち民間団体と行政・医療機関との連携も取りやすくなりました。ただし、制度につながるには、その人が誰かに「助けて」と言えなければなりません。

「にんしんSOS東京」には、毎月平均200件を超える相談が入ります。この方たちは「助けて」を言うことができた方たちですが、私たちは、誰にもつながることなく孤立し「助けて」を言えないでいる方たちが、もっとたくさんいることを知っています。私たちにまだつながっていないにんしんの困りごとを抱えている方たちに、どうしたら相談窓口を知ってもらえるのか、また、どうしたらもっと気軽に相談することができるのかを考え、私たちは新しい相談窓口（チャット相談）の開設準備をはじめました。

「にんしんにまつわる困りごとは、社会がつくりだしている困りごと」そんなまなざしで周囲を見てみると、これまでとは違う風景が見えてくるかもしれません。たとえば、にんしんが困りごとになるのは、誰か特別な人ではないと気づくかもしれません。待ちのぞんだ妊娠であったとしても、戸惑いや不安を感じることは誰にでも起きうることです。何か予期せぬ事態が起き、経済困窮に陥ることだってあるでしょう。身体的にも精神的にも社会的にも危機的状況に陥ってしまうことだってあります。

だから。
もし、あなたの隣に気になる人がいたら「なにかあった？」と声をかけてみて欲しいのです。
そして「ここに相談してみたら？」と私たちの窓口を知らせていただけたらと思うのです。

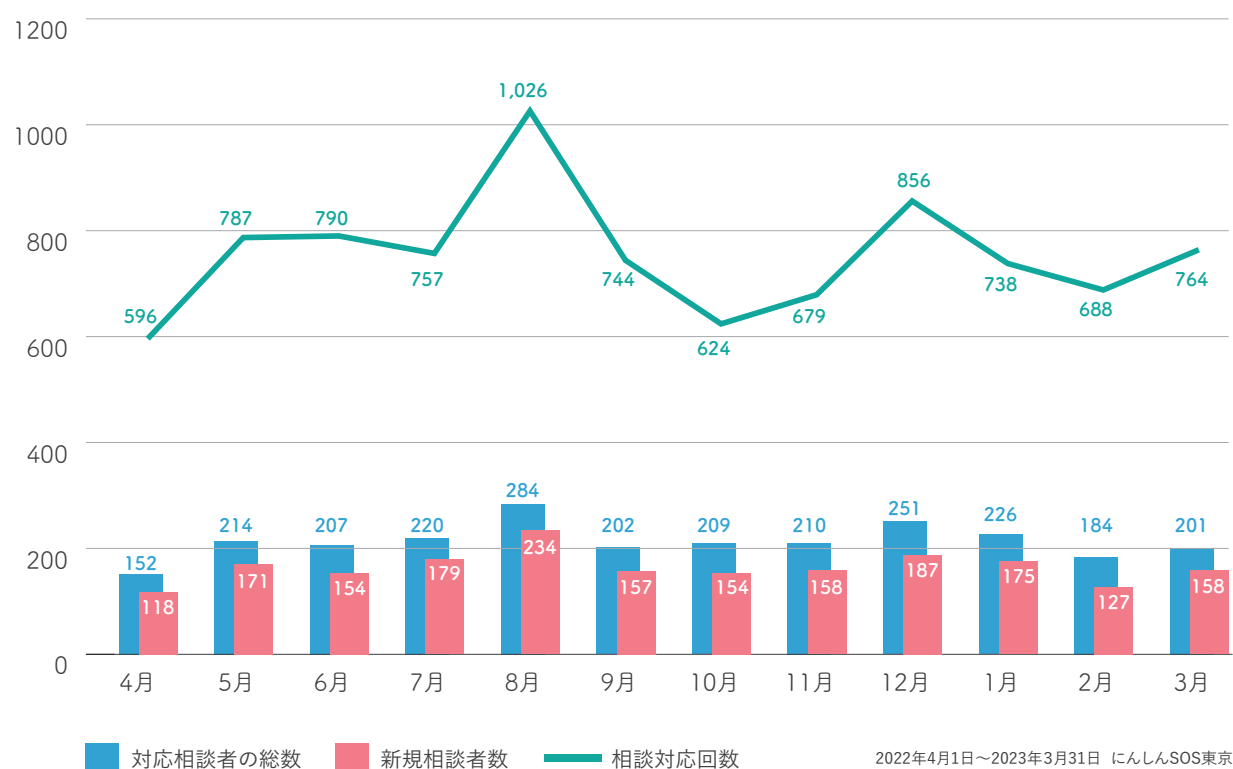
にんしんが困りごとになっても、
大丈夫な社会。
「助けて」と言える社会。
そんな社会の実現を
私たちは目指しています。



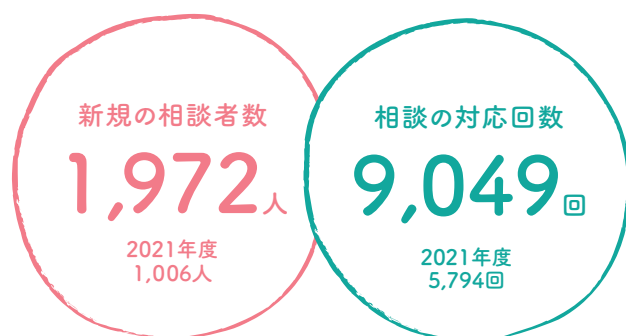
1.1 相談支援事業

全国どこからでも匿名で相談ができる妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」を、2015年12月に開設以来、1日も休むことなく年中無休で相談窓口を開いています。「にんしんSOS東京」には、これまでの7年間で、全国7,700人以上の方々から相談が寄せられ、延べ4万4000件を超える相談のやり取りを行ってきました（2023年3月末現在）。

相談者数と相談対応回数

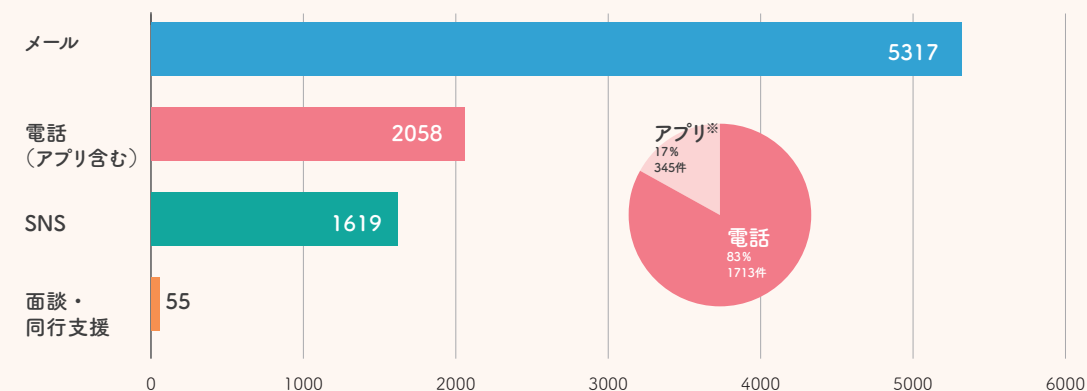


2022年度、対応相談者数は2061人。
そのうち、新規の相談者数は1972人。
相談対応回数は9049回（過去最高値）。
相談者1人につき平均3.5回の相談対応をしています。



相談方法内訳

n=9049



SNS相談について

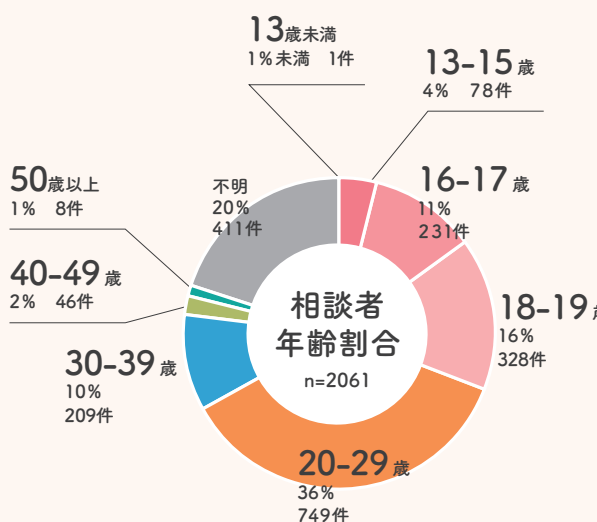
2022年度は、新規相談窓口TwitterのDM相談を開始しました。
週に3日／1回2時間の相談です。
妊娠確定前の相談、アフターピルに関する相談など、1619件の相談がありました。

電話やメールでのやり取りが苦手な方からの相談が多く、匿名性が高いので、地域や年齢は不明なケースがほとんど。ハイレスクケースなどはメールや電話の相談窓口へ誘導し、よりきめ細かな継続支援につなげています。

※「アプリ」とはWi-Fiがあれば電話番号がなくても無料で通話できる専用アプリのこと。

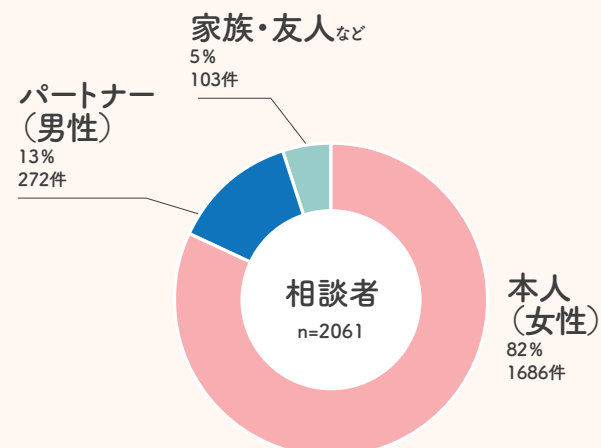
相談者年齢割合

10代が32%、20代が36%と、若年者が7割近くを占めています。
この傾向は開設以来ほとんど変わりません。



男性からの相談

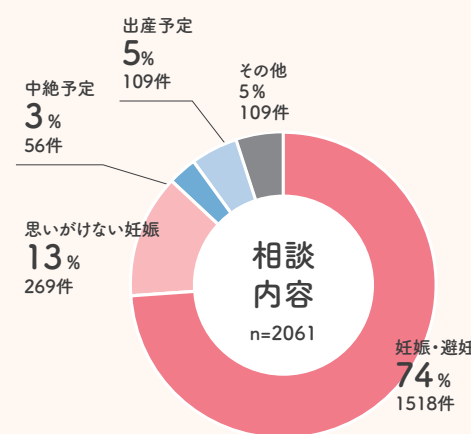
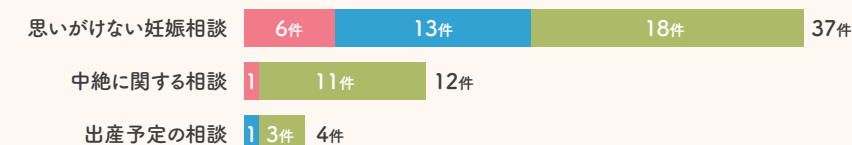
男性からの相談は13% 10代からの相談が多く89件。
内容は「彼女の生理が遅れている」「コンドームが破れた」など。
パートナーと一緒にかけてくることもあります。



相談内容

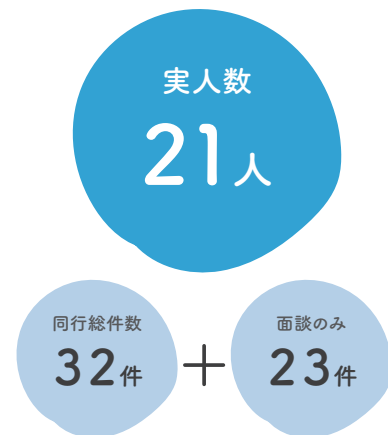
妊娠確定前の相談が74%
10代では「思いがけない妊娠」が37件となり、緊急性の高い相談が多い傾向です。

10代の相談内容



1-2 相談事業 面談・同行支援

同行件数



「面談・同行支援」は、ピッコラーレが大切にしている支援です。
2022年度は、18歳から32歳まで、21人の面談同行が32件。
すべて安全な居所のない妊婦でした。
また、初回相談時の妊娠週数は、妊娠後期が43%でした。

「病院に行くお金がない」という経済的な問題

「こんなになるまで、どうするつもりだったの?」と
行政や病院で責められるのではないか

「私のような妊婦でも受診できる病院はあるのか」という不安や不信

これらの思いが相談者を身動きできなくさせています。
私たちは、電話やメールで何度も相談者とやりとりを行い、相談者の気持ち
が動くのを待って、同行や面談の約束をします。相談者自身に、待ち合わせ
の日時と場所を決めてもらい、生育歴や今後どうしたいのかなどを直接伺っ
たのちに、保健センターや福祉事務所などの行政窓口、医療機関、警察や
法テラスなど、その方が必要とする様々な連携先につなぎます。

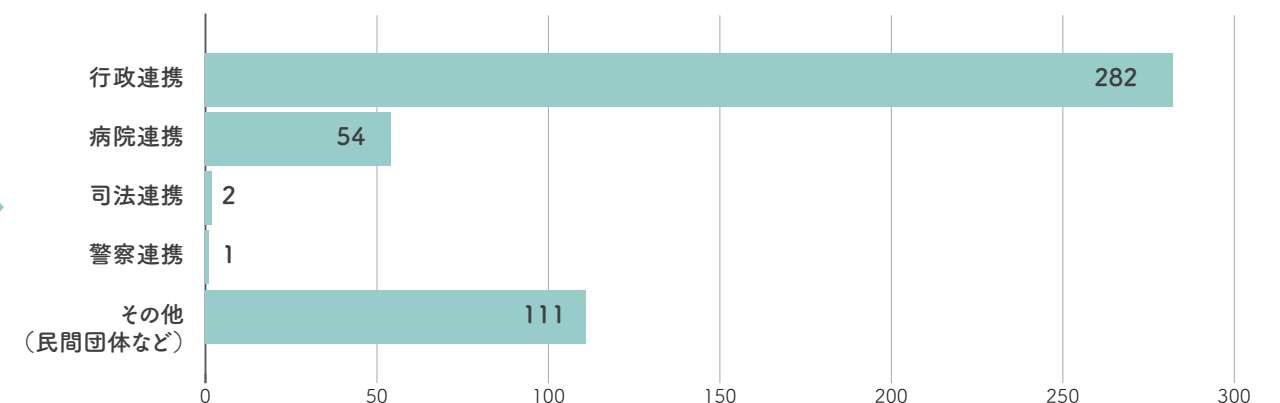
本人とのやりとり回数



やりとりの内訳



関係機関との連携数



同行支援は、相談者本人やつなぎ先の関係機関とたくさんのやり取りを重ねながら実現していきます。

同行を決意するまでに、本人と私たちとの間で平均27.7回のやりとりが必要でした。

同行までのやりとり回数の最多は63回でした。

また、同行して行政や医療機関につないだ後も、やりとりが必要になります。

同行後のやりとり回数は146回で、1人平均7回のやりとりがありました。

私たちは関係機関とも緊密にやりとりをして、相談者理解を促したり、支援方針を一緒に話し合ったりします。

関係機関は行政や医療機関がほとんどのため、「にんしんSOS東京」の相談時間では連携をすることが難しくなります。

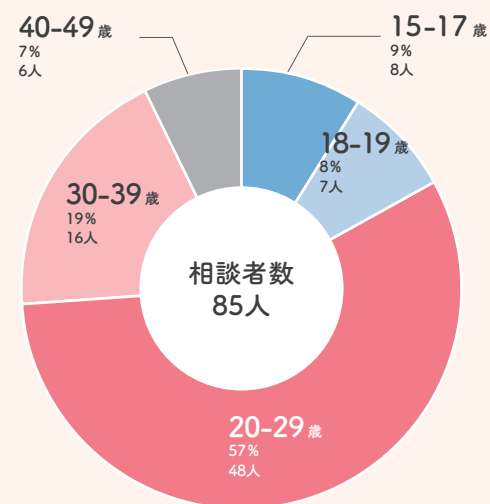
そのため、9時から17時を稼働時間とする「相談サポートチーム」を編成し、行政や医療機関との連絡・相談・連携を
密に行えるようにしました。

2022年度の関係機関とのやりとり回数は450回にもなりました。

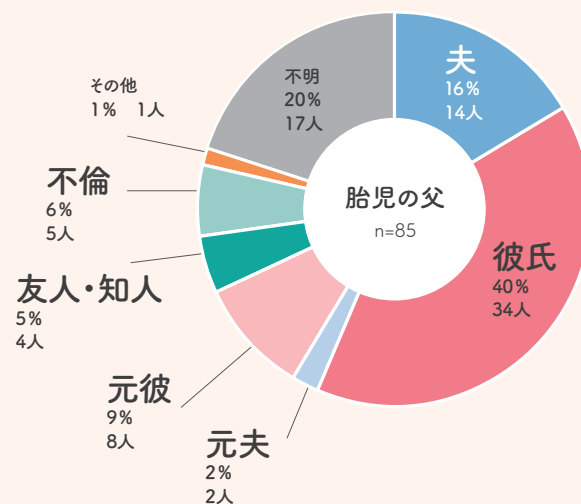
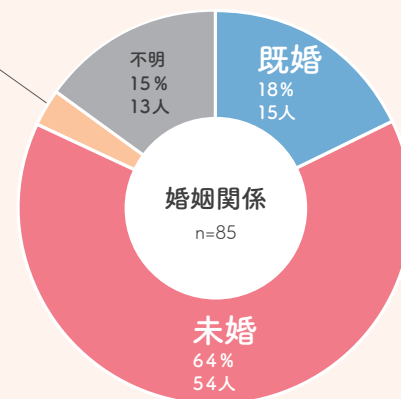


中絶後の相談窓口 PUPU プーパー

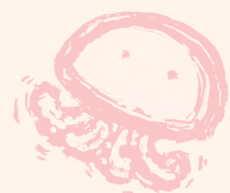
相談受付はメールのみ。相談窓口開設は1週間に1度というゆっくりしたペースで相談を受けています。全国から相談が寄せられていますが、関東や関西の都市部からの相談が多い傾向が見られます。2022年度は、昨年度よりもやりとりが続くケースが多く30回往復したこともありました。相談者への返信内容などについて、メンバー間で密にやりとりを行った上で返信をするなど丁寧な対応を心がけたことや、月1回のミーティングでもケースの振り返りを行うなどして、相談者理解を深めていったことが、相談者の「話したい」という思いにつながったのではないかと考えています。



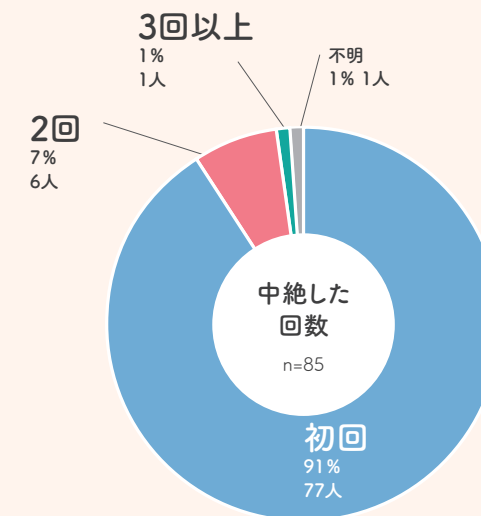
離婚
3%
3人



男性から中絶後の女性にどう関わればよいかという相談もあり、少ないながらも男性にとって必要な窓口でもあるのかもしれない。

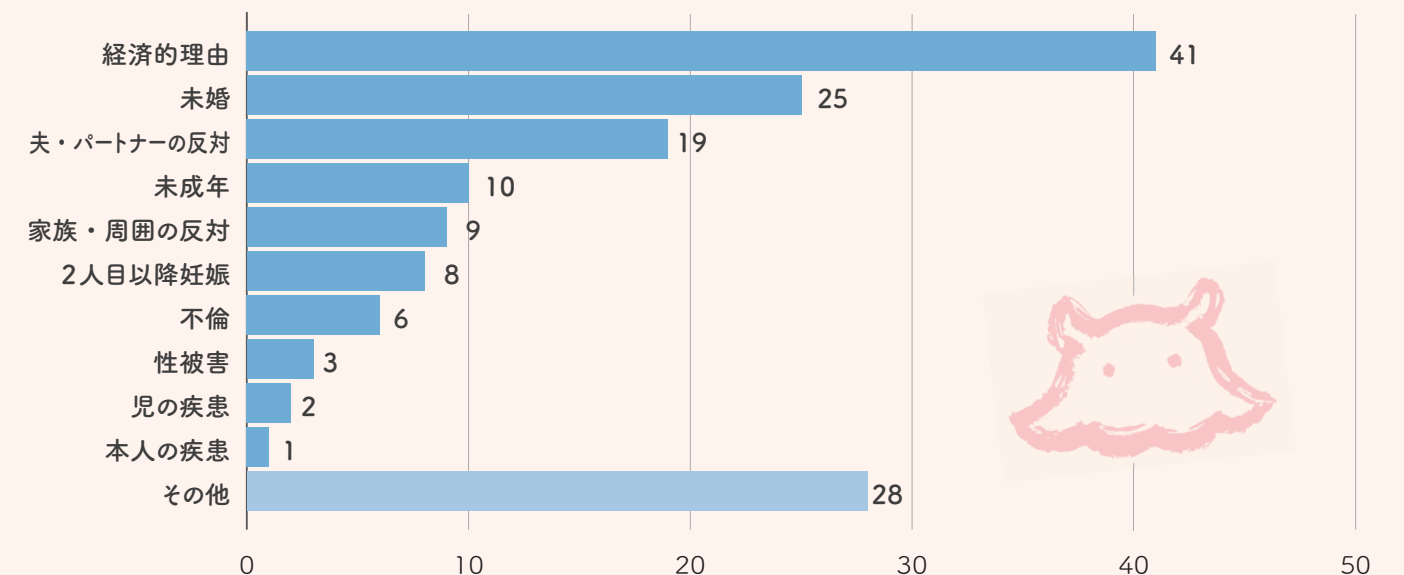


PUPU(プーパー)は、ハワイ語で二枚貝という意味。中絶を経験したことによって固く閉ざされた心を少しずつ開いていく手伝いをしたい、という思いを込めました。



10代20代の相談者の中絶理由は、未婚であることや経済困窮などが多く見られました。30代は既婚者が多いのですが、それでも経済的な要因から中絶を余儀なくされている場合が多く、安心して2人目以降の出産を迎えられない人が多いように見受けられました。

中絶理由

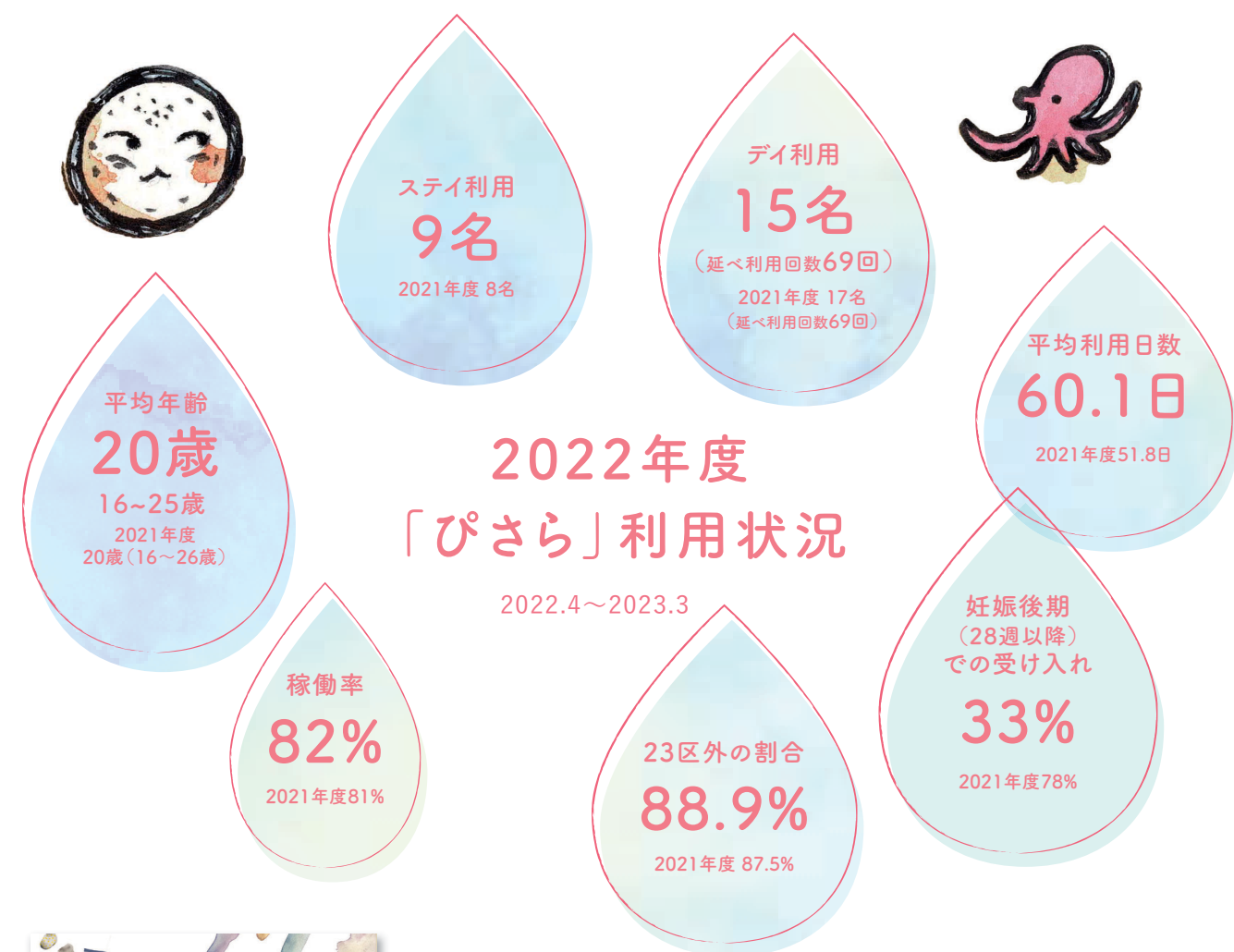


誰にも相談できずに、PUPUの窓口にたどり着く方も多いのですが、他の人に相談したことによって、二次的に傷つく経験をしている方も少なくありません。社会的に中絶への理解やその背景に対する理解が低いことがその原因だと思われます。

相談者だけでなく周りの人や中絶を全く知らない方に対しても良い悪いでジャッジするのではない中絶を含めた新しい性教育のあり方について考えていくことが今後の課題です。

「いつでもおいで」と言える居場所

「びさら」は、社会の中で孤立している若年妊婦に「いつでもおいで」と言える安全で安心な居場所です。彼らの声を聞きながら、私たちだけでなく、信頼できる仲間や地域の方、そして応援して下さる方と一緒に作ります。訪れた妊婦の衣食住を支えることに加えて、医療や福祉へのつながを行い、本人がここにいたい、そう希望すれば、まだこの妊娠をどうするのか決まっていな段階から利用できます。産むか産まないか、「びさら」での暮らしの中で様々な選択肢を知り、身近な人への相談を通じて自分の身体のことを自分自身で決めていくことができるよう、隣で見守り支えています。



2022年12月11日

日本子ども虐待防止学会 第28回学術集会ふくおか大会で、
びさらの活動について発表しました！

- ・大会企画シンポジウム「周産期からの切れ目のない母子支援で孤立を防ぐ」
- ・「孤立する若年妊婦に対する居場所支援の現状と課題—3団体の実践から考える—」
類似事業団体との連携

2022年度 びさら利用状況(2022.4～2023.3)

稼働率・利用者数、利用者平均年齢は前年度通りでした。**主たる利用者の年齢は10代が多くを占めている**のも前年度同様です。これは他の施設と比較して「びさら」はルールが少ないため、行政が用意する既存の施設から弾き出されてしまった方や、生育歴の中で施設を経験し、ネガティブな感情を持っている方でも、「ここならやっていけるかも」、と思ってもらえるからなのかもしれません。

前年度と違いがあるのが、**平均利用日数が延長した**ことです。これは、この妊娠をどうするのかまだ決まっていな、妊娠初期からの利用が増えたことに由来します。彼らのほとんどが、本人からのご相談ではなく、生育歴の中で関わった支援者からの利用問い合わせを経て「びさら」に繋がり、ここで暮らしながら迷い悩み、怒りや悲しみの混乱の中で、様々なことを自分で決めていきました。

「びさら」は豊島区内にあります、**23区外からの利用問い合わせがひっきりなしにあり、実際の利用も23区以外に住民票がある方が多くを占めています**。住民票所在地と「びさら」の前在地が異なることも多く、困難を抱える方が居所を転々として生きていることを示しています。彼らを再び漂流させないためには、**ようやく辿り着いた居場所が広域での利用が可能である必要があります**。

将来について共に考え、子育てのサポートをする
アフターケアを本格的に開始します！

「びさら」での滞在は平均2ヶ月ほど。いずれは卒業し、長期に滞在できる居場所に移っていきます。卒業した後も関係性が続く、「いつでも帰ってきていい」、そんな居場所を目指した結果、卒業生たちが里帰りするようなデイの利用のニーズが高まっています。それに応えるにはより広い拠点が必要になったことをきっかけに、2023年度夏に「びさら」は新拠点に移転をします。新しい拠点では、「びさら」に加え、卒業生たちのアフターケア(将来について共に考えたり、子育てのサポート)ができる場所の運営も始める予定です。

2023年夏
「びさら」はお引越し
して広がります！

「びさら」～しずくの声に耳をすます場所～

「みんないつも『どうしたい?』って聞いてくれたよね。今は自分で自分に『どうしたい?』って聞けるようになったよ」
これはびさらを半年ほど利用したある女の子の言葉です。
一つ一つ自分で決めていくことを保証することは、彼らが持つ生きる力を信じること。
びさらでの生活のさまざまな場面でスタッフから『どうしたい?』という問いを投げかけられ続けたあと、
いつしか自分への問いかけが始まることをこの言葉が教えてくれます。

「自分で自分に『どうしたい?』って聞けるようになった」
それは、頭の中に自分の味方が生まれ、自分で自分を励ますことができるようになったということなのかもしれません。
自分が何が好きなのか、どんな場所で誰と暮らしたいのか、どんなことに幸せを感じるのか、
訪れた若者がいつか自分のHOMEと思える場所を見つけて欲しい、そう願っています。



2021年1月から始まった出張保健室も2年目となりました。地域の若者たちの居場所で、性に関することや、からだや心や、家族や友だち、進路や就職のことなどを、何でも話せる「保健室」を開いています。学校に通えていなかったために性教育を受けられていない人、授業はあったけれど難しく理解できなかった人、性のことは苦手だから、みんなともあまり話さない人など。地域にはいろいろな若者たちがいます。話を聞き、個人やそのグループの状況に合わせて、必要な性の知識を伝えたり、一緒に話したりする場を作っています。そうすることで、思いがけない妊娠を減らすことにつながり、自分の人生を主体的に生きる力になるのではないかと考えています。

支援者の方からは

- 子どもたちの中にはピコタイムの日を待っている子たちも出てきた
- 自分だけではなく、友だちにも声をかけて一緒に参加する子も出てきている。
- 自分も、子どもの時に、聞いておきたかった。
- 妊娠のことになると、どうしても自分達だけでは対応が難しいので、お願いしてしまう。
- 定期的に来てもらって、顔を合わせておくことで、いつでも相談できるっていう安心感があると思う。

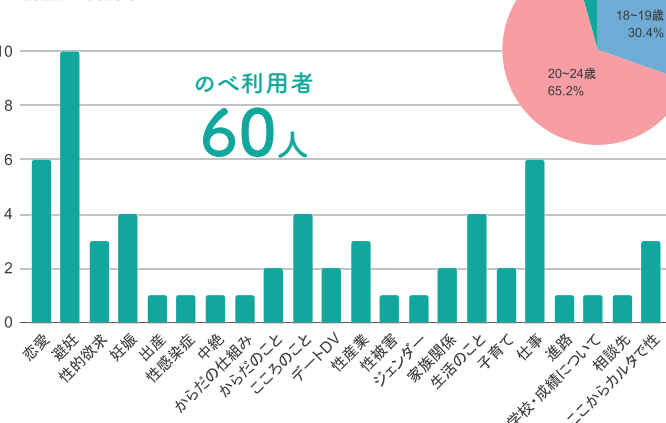
子どもたちからは

- 生理痛がひどくて、朝起き上がるのもつらいことがある。ピルって聞いたことはあったけど、生理痛が楽になるとは知らなかった。(中学生女子)
- 低用量ピルで生理の周期を調節することもできるなんて、もっと早く知りたかった。(高校生女子)
- 彼氏とカリアルに付き合うのとかって、考えていない。だから、性の知識ってあまり必要とか思わない。(高校生女子)
- セックスしたい。だけど、コンドームは名前を聞いたことしかない。(中学生男子)
- 学校で習ったつもりだったけど、わかっていないこともあった。(高校生男子)

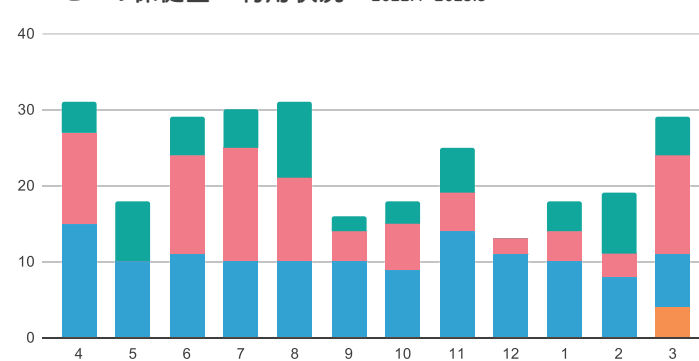
出張実績

2022年4月～
2023年3月

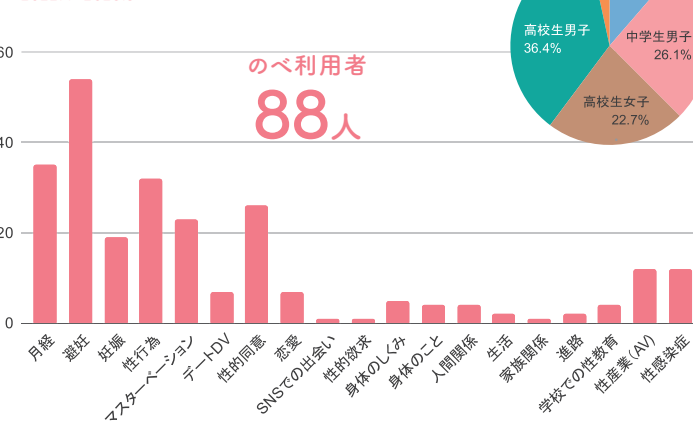
ピコの保健室 話した内容 & 利用者年齢



ピコの保健室 利用状況



ピコの保健室 話した内容 & 利用状況



豊島区のすずらんスマイルプロジェクトの中の一つの「若年女性つながりサポート事業 出張相談会『ぴこカフェ』」。生きづらさを抱えながらも行政の相談機関を利用できずにいる若年女性を、行政サービスに繋がるきっかけ作りを目的として、ピッコラレが委託され2年目となりました。

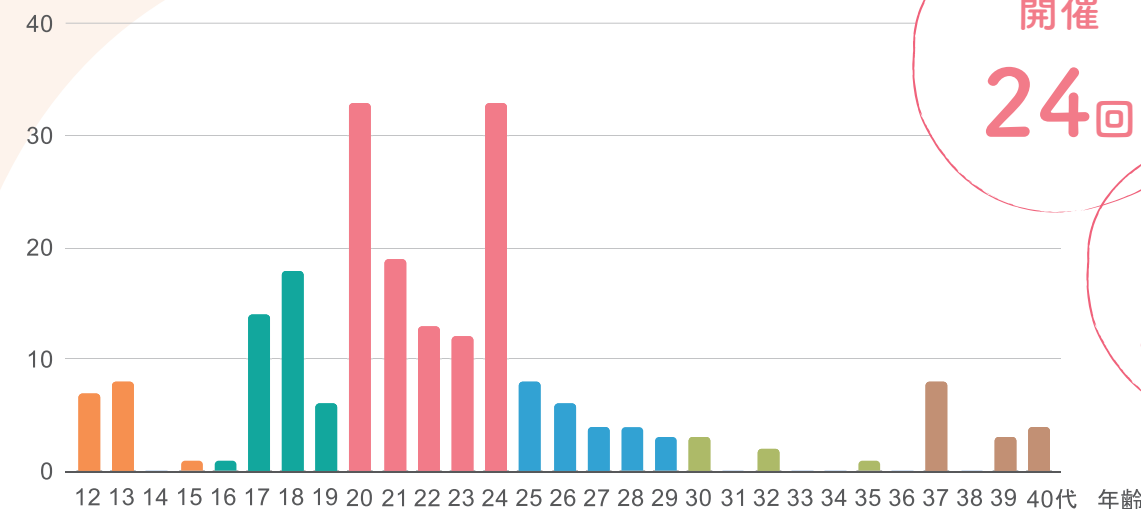
リピーター数も増え、2022年度は、24回の開催でのべ211名の方が参加され、一回の平均利用者が8.8人(前年度は5.5人)でした!

リピートして来られることで、話せるようになったり、自分が出せるようになったり、自分がこの間に、出来たことや、行ってみたこと、思ったことを、ゆっくり聞いてもらうことで、自分の変化に気がつけることは、生きる力にもつながるのではないかと思います。そして、カフェという場所だからこそ、話しやすさを感じるのかもしれない。これからも、利用する人達も運営する側も、みんなで安心で安全な場を作っていきたいと思っています。

参加人数

参加人数の年齢

2022.4~2023.3

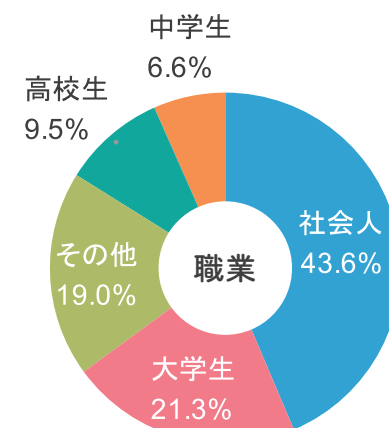


開催

24回

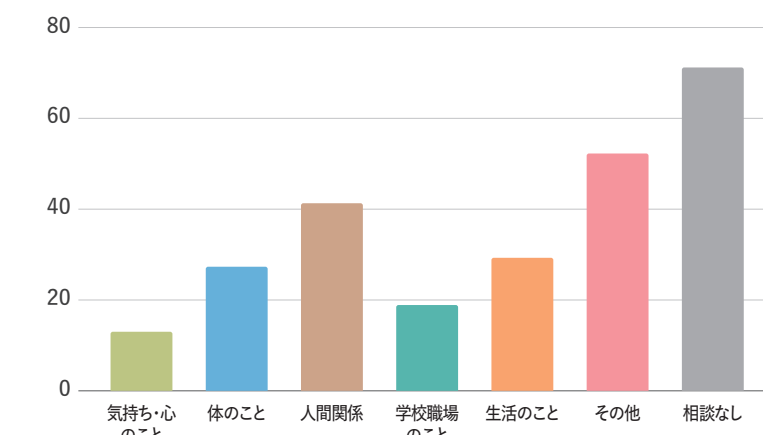
のべ
参加者数

211人



相談内容 (一人につき複数相談あり)

2022.4~2023.3



2023年度も引き続き月2回(第2火曜日&第4日曜日 15:00~19:00*)開催しています。
※開催日時等は変更となる可能性がありますので、
最新の情報はピッコラレのX(@piccolare)にてご確認ください。



3 研修・啓発

「妊娠葛藤」とは何か？社会に潜むどのような課題が「妊娠葛藤」を生み出しているのか？を知り、課題解決のために私たち市民一人一人に何ができるかを考える研修や、支援者向けに、妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」・中絶後の相談窓口「PUPU」、若年妊婦のための居場所「びさら」・出張保健室「ピコタイム」など活動事例の紹介やケースワーク等実践型の研修を通して、スキルアップや多職種で学び合う機会を提供しています。

思いがけない妊娠相談事例から学ぶセミナー 2022

研修A プログラム			
9/17 ^土 オンライン開催	10:00～11:00	ピッコラーレ① 相談窓口に寄せられる妊娠葛藤の現状と私たちのとりくみ	＊
	11:15～14:30	ピッコラーレ② 若年妊婦の居場所「びさら」の実践から	＊
	13:15～14:45	講義① 若年妊娠の調査研究から見える社会課題	講師 上間 陽子
	15:00～16:30	講義② 若者と共に行う性の健康の啓発とユースフレンドリーヘルスケア	講師 染矢 明日香
	16:40	終了	
研修B プログラム			
1日目 10/1 ^土 オンライン開催	10:00～11:30	講義① 福祉編 ～相談事例から「妊娠ソーシャルワーク」を考える～	＊
	12:30～14:10	グループワーク① 様々な背景を考慮した相談技術	講師 伊東 由香子
	14:20～15:50	講義② 医療編 ～相談事例を交えながら知識と情報を確認する～	＊
	16:00～17:30	グループワーク② 電話相談ロールプレイ研修	＊
	17:40	終了	
2日目 10/16 ^日 サンシャインシティ「共創空間」 ワールズインボート・ドクトビル 9階	9:40～11:10	講義③ 困難な背景を持つ未成年者の妊産婦への支援 ～法的な問題を中心に～	講師 馬場 望
	11:20～12:50	グループワーク③ メール相談研修	＊
	13:50～15:20	グループワーク④ 相談事例をもとに ～あなたの気持ちを見つめよう～	＊
	15:30～17:30	グループワーク⑤ ケースカンファレンス ～この人の妊娠をどう支える？～	＊
	17:40	終了	
	18:00～	交流会 (別途後日ご案内します)	

研修参加者の声

「事例をまじえたお話は、とてもわかりやすかったです。グループワークは、自分自身がどのような考え方をするのかを見つめ直すのにとてもよく勉強になりました」

「講師の皆さん全員が当事者の声を、安心と安全に配慮して聴いてきた経験が良くわかるお話でした」

「10代～20代の若年妊娠について、現状と課題が豊富な実例からよくわかりました」

「調査データと実体験に基づいたお話から、若い女性たちが抱える現状を知ることが出来ました」



研修の様子はホームページのイベントレポートでもご報告しています！
<https://piccolare.org/cat-news/20230406/>

ご支援・ご協力、ありがとうございました！

- 本研修は、「タケダ・女性のライフサポート助成プログラム」助成対象事業です。
- 研修Bの会場は、株式会社サンシャインシティ様にご協力いただきサンシャインシティ「共創空間」にて実施しました。

研修A | 妊娠をめぐる社会課題を学ぶプログラム オンライン開催 参加90人

新生児遺棄や孤立出産の背景にある「妊娠葛藤」について、ピッコラーレが運営する相談窓口・居場所に届く相談者の声や活動の事例を通して学び合いました。外部講師に上間陽子さん（琉球大学教育学研究科教授）と染矢明日香さん（NPO法人ピルコン 理事長）をお迎えし、妊娠を取り巻く日本の課題や現状をより多面的に考える機会を得ることができました。

研修B | ケースワークを取り入れた実践型プログラム 参加48人

1日目（オンライン）の医療編・福祉編では、相談事例を交えて、妊娠ソーシャルワークについて考え、支援現場で役に立つ知識と情報を確認しました。2日目（会場開催）は、馬場望さん（弁護士）より、未成年者の妊産婦支援における法的な課題についてご講義いただきました。またケースワークを取り入れ、支援の実践を実践的に学びました。

6名の相談支援員が誕生！

2022年度は、研修受講生の中から6名の相談支援員が誕生しました。新たな仲間が活動に参画してくれること、とても嬉しく思います。

※当団体では、相談支援員（相談窓口）・生活支援員（居場所）の採用を不定期で行っています。支援員へのご応募には、「研修A&B」の受講が必須条件となっています。
2023年度は、秋と冬の2回、研修を実施予定です。
最新の採用・研修情報はホームページにてご確認ください。

出張研修のご依頼を受け付けています

対象：
行政/医療機関/民間支援団体/中高大学教育機関の職員向け
研修テーマ：
「妊娠葛藤」「特定妊婦」「相談支援」「居場所支援」「包括的性教育」「性と生殖に関する健康と権利（SRHR）」など
※支援員向けには、ケースワークを取り入れた実践重視の初期研修、フォローアップ研修、スーパーバイズ研修も対応しています（オンラインも対応可）
※半日（3時間程度）、1日（6時間程度）、複数日研修があります



詳細は、ホームページのお問い合わせフォームよりご相談ください。
<https://piccolare.org/contact/>



4 調査研究・政策提言

2022年度も「性と生殖に関する健康と権利（SRHR）」に関連する制度改善を求めるアクションとして、提言活動を積極的に行いました。ジェンダー平等やSRHRの視点が欠けた法制度は、妊娠葛藤を強める大きな要因となっています。迅速な制度改善に向けて、2023年度も他団体と連携しながら現場の声を社会に届けていきます。

主な提言活動（2022年度）

2022年9月

#もっと安全な中絶をアクション
（Action for Safe Abortion, Japan: ASAJ）主催
国際セーフアボーションデー・トークイベントに登壇、中絶薬のアクセス改善の必要性について発言

2022年11月

困難な問題を抱える女性への支援に係る基本方針等（女性支援新法）に関する検討会ヒアリングおよび会議（厚労省）に出席し、新法からSRHRの観点から抜け落ちていることについて発言

2022年度
委員・
臨時構成員

内閣官房こども家庭庁設立準備室
有識者会議
臨時構成員：中島かおり

ピッコラーレは、「女性支援新法」（2024年4月施行）や「こども基本法」（2023年4月施行）に基づき策定が進められている「こども大綱」の議論の場においても、ジェンダーやSRHRの視点を入れることの重要性を発信し続けてきましたが、「命の安全教育」「プレコンセプションケア」にとどまり、SRHRを捉えた視点は入りませんでした。この点の改善にむけた動きも今後重要になると考えています。

2023年1月

緊急避妊薬のOTC化に関する院内勉強会（主催：緊急避妊薬を薬局でプロジェクト）に出席、リレートークで緊急避妊薬の速やかなOTC化の必要性について発言
<https://piccolare.org/cat-news/20230125-2/>



2023年1月

緊急避妊薬のOTC化に関するパブリックコメント提出
<https://piccolare.org/cat-news/20230124/>



2023年2月

経口中絶薬承認の可否に関するパブリックコメントを提出
<https://piccolare.org/cat-news/20230228/>



「若年妊婦のための居場所「びさら」3年間のあゆみ」を制作・発行しました！

2022年度、「びさら」は開設から3年目を迎えました。何らかの理由を抱え、安心して過ごせる居場所を失い、行政や福祉、医療機関にも繋がれないまま漂流している妊婦たちを受け入れています。「びさら」では、日々の支援や運営において葛藤もたくさん生まれています。一方で、これまでの実践を通じて得た学びや知見も多くあります。今回、この冊子の制作を通して内的に実践を振り返り、またその振り返りを社会に広く共有し、若年妊婦の居場所支援に関わる人たちのそれぞれの現場において活動の参考にしてもらえれば、との想いでまとめました。

初めから最後まで読む、かいつまんで必要な部分のみ読むなど、自由にご活用ください！

※「若年妊婦のための居場所「びさら」3年間のあゆみ」は認定NPO法人PIECESの協力の元、プロボノ・インターンによって構成される「リサーチチーム」が分析や執筆の中心を担いまとめました。また、「赤い羽根福祉基金」の助成により制作しています。



- 1章：日本の妊婦の現状
- 2章：project HOME「びさら」について
- 3章：「びさら」利用者の分析及び支援内容
- 4章：「事例紹介」

★冊子をご希望の方へ
以下より申し込めます。
無料で提供いたします。（送料はご負担いただきます）
<https://piccolare.shop/>



メディア掲載・出演

新聞

- 2022年5月 朝日新聞デジタル
妊娠は病気じゃないって本当？ 支援の現場から考える妊娠の費用負担(5/27)
- 2023年1月 毎日新聞
「妊娠葛藤」、コロナ禍で深刻に 感染恐れ産科の受診控えも(1/24)
- 毎日新聞
中絶ためらう「手術の恐怖」 新たな選択肢、経口中絶薬の期待と課題(1/27)
- 2023年2月 朝日新聞デジタル
東京の赤ちゃんポスト計画、見えぬ道筋 行政が慎重、その理由は(2/10)

ラジオ

- 2022年12月 ニッポン放送
『おしゃべりラボ～しあわせSocial Design～』 12/24(土)7:40～8:00
12/31(土)7:40～8:00

ネットニュース

- 2022年10月 テレ朝news
「誰にも頼れなかった」思いがけない妊娠…
なぜ相次ぐ孤立出産をなくせないのか(10/15)



オウンドメディア

- 2022年6月 LIFULL HOME'S PRESS
ピッコラーレによる若年妊婦の居場所づくり。
予期せぬ妊娠に悩み、孤立する妊婦を支援(6/25)



テレビ

- 2022年9月 クローズアップ現代(NHK総合)
揺らぐ“中絶の権利”日本の現実は
9/7(水)19:30～



講演



行政・公的機関

- 国連人口基金(UNFPA)
千葉県健康福祉部児童家庭課母子保健班
千葉県社会福祉協議会 社会福祉研修センター
東京都社会福祉協議会
東京都社会福祉協議会婦人保護部会
東京都ひとり親家庭支援センター はあと
さいたま市男女共同参画相談室
世田谷児童相談所
世田谷区 DV 防止ネットワーク代表者会議
及び世田谷区要保護児童支援全区協議会
豊島区子ども家庭部子ども家庭支援センター
熊本市健康福祉局子ども政策課

企業

- 東京ガス株式会社
富士通株式会社
武田薬品工業株式会社

教育関係

- 埼玉県立大学 研究開発センター
東京家政大学 人文学部 教育福祉学科
日本女子大学
法政大学
立教大学 法学部
大東学園高等学校
杉並区立松溪中学校

民間団体

- 認定NPO法人かものはしプロジェクト
特定非営利活動法人ETIC.
特定非営利活動法人ピルコン
特定非営利活動法人OVA
特定非営利活動法人デートDV防止全国ネットワーク
特定非営利活動法人ベビースマイル石巻
特定非営利活動法人そらいろコアラ
一般社団法人リディラバ
社会福祉法人中央共同募金会
日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会
日本弁護士連合会
東京弁護士会子どもの権利委員会
にっぽん子ども・子育て応援団
北村メンタルヘルス学術振興財団
成田空港南ロータリークラブ
自立援助ホームクリの家
探求→究する家(ラボラトリ文鳥)

助産師会

- 一般社団法人宮城県助産師会
一般社団法人川崎市助産師会
公益社団法人神奈川県助産師会

病院

- 佐賀病院

講演テーマについて

「妊娠葛藤」「相談支援」他

「妊娠葛藤」「特定妊婦」「相談支援」「居場所支援」に関するテーマについて、講演のお問い合わせを多くいただきました。講演では、相談窓口へ届く声、相談者の背景や妊娠葛藤を生み出す社会の要因などを紐解いてお伝えしています。また、課題に対するピッコラーレの打ち手を具体的な活動を紹介しながらお話しています。

包括的性教育について

教育機関や自治体、里親支援団体から、包括的性教育についての講演依頼をいただく機会が増えました。性と生殖に関する健康と権利(セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ)を軸に、大人が教育現場や家庭内で性教育をどう伝えていくかを事例を踏まえてお話ししました。また、中高生向けには「自分の身体のこととは自分で決める」という自己決定の大切さを伝えています。



講演のお問合せ先

講演をご要望の場合は、お問合せフォームに目的、講演時期、対象者、規模(人数)等をご記入の上送信ください。





Thank You あたたかいご支援、ありがとうございます！

「にんしん」をきっかけに、誰もが孤立することなく、自由に幸せに生きていくことができる社会をともにつくる仲間の輪を広げていくために、2022年度も様々な広報/FR活動を実施しました。想いを共有し、支えてくださる仲間の輪をこれからもどんどん広げていきたいと思ひます！

クラウドファンディング

「誰にも頼れない妊娠をなくしたい。居場所とつながりの支援を一緒に」

目標金額1,000万円のクラウドファンディングに挑戦し、最終的に828名の皆さんから11,006,000円のご支援をいただきました！

このクラウドファンディング期間中、スタッフと同じかそれ以上に、毎日その進捗に一喜一憂し、達成を喜んでいたのは、かつてピッコラーレに相談した方や「びさら」を利用した方々でした。皆様のご寄付・ご支援が、相談者、利用者をエンパワメントしてくださっていることを改めて実感したクラウドファンディングとなりました。

オンライントークイベント

クラウドファンディング開催期間中には、オンライントークイベントも2回開催し、合計で466名の方にお申込みいただきました。イベントでは、チャットに書かれた感想をひろって議論が広がるなど、登壇者と視聴者が一緒にイベントを作っているライブ感もあり、とても充実した時間となりました。

10/7(金) **せやろがいおじさんと考える「性と生殖の健康と権利」～自分の身体のこと、決めるのは誰？～**
 ゲスト：せやろがいおじさん モデレーター：福田和子さん
なんでないのプロジェクト代表

10/18(火) **10代妊娠からのSOS～「つながる」から「つながり続ける」まで～**
 ゲスト：今井紀明さん モデレーター：望月優大さん
認定NPO法人DxP理事長 ライター

**合計466名
のお申し込み**

10月18日の
トークイベント登壇者と
運営メンバー

達成御礼

参加御礼

また、クラウドファンディングのリターンの一つとして、「現場の相談員と話す会」を開催。13名の支援者と6名の相談員が参加し、時間内では話が尽きないほどの盛会となりました！

皆さまからの応援、本当にありがとうございました！クラウドファンディングでご支援いただいたご寄付は、妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」や妊婦のための居場所「びさら」ほか、ピッコラーレの様々な活動を継続・推進していくために活用させていただきます。

活動説明会（2022年5月～毎月開催！）

ピッコラーレの課題意識や活動内容について知ってもらうため、毎月1～2回の頻度でオンライン活動説明会を開催しています。2022年度は183名の方にご参加いただき、さらにその中で16名の方がマンスリーサポーター『ピコサポ』の仲間になってくださいました！



ご参加183名
16名の方が
マンスリーサポーターに！

活動説明会運営メンバー

活動説明会は、インターン・プロボノメンバーによる運営協力のもと開催しています。

これから活動に参加したい方や既にピコサポ・賛助会員の方など、どなたでもご参加いただけます。詳細はホームページのお知らせに記載していますので、ぜひお気軽にご参加ください。

インターン・プロボノでのご支援

2022年度も新たに5名（学生3名・社会人2名）の方がインターン・プロボノとして広報/FRチームやリサーチチームなどに参画し、それぞれの経験やスキルを活かして活動を支援してくださりました！

今後も毎年インターン・プロボノを募集予定です。関心のある方はメルマガ/SNS等でご案内しますのでぜひご登録ください。

参画御礼



助成金でご支援いただきました！

- 公益財団法人 日本財団
- 社会福祉法人 共同募金会 赤い羽根福祉基金
- 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
新型コロナウイルス対策子ども支援事業 子ども支援団体への活動助成金
- タケダ・女性のライフサポート助成プログラム（日本NPOセンター）
- 社会福祉法人 東京都共同募金会



表彰実績

- 社会デザイン学会主催 社会デザイン大賞
- としまイノベーションプランコンテスト2022 審査委員会奨励賞



表彰いただきました！

個人の方からのご寄付やご支援

ご寄付

- 賛助会員 30名
- マンスリーサポーター「ピコサポ」212名
- 都度のご寄付 975名
（クラウドファンディングでのご支援含む）

企業・団体からのご寄付やご支援

団体賛助会員

- さかい内科・胃腸科クリニック
- テクマトリックス株式会社
- 株式会社ハッピークローバー

ご寄付

- 柏東ロータリークラブ
- 国際ロータリー第2790地区第11グループ
- PEACE DAY財団
- 富士通デザイン株式会社
- 株式会社ブリヂストン BSmile 募金
- 株式会社三菱UFJ銀行
- NPO法人人身取引被害者サポートセンターライトハウス

※一定額以上のご支援をいただいた法人・団体さまを掲載しています。（敬称略・50音順）

物品寄付

食品・衣類等日用品

- オハナ合同会社（衣類）
- 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- 社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会
- 新宿子ども食堂たんすまち
- 一般社団法人 若草プロジェクト

IT機器

- 三井物産株式会社

ヘルスケア商品

※ピコの保健室やびこカフェなどで活用させていただきました！

- オカモト株式会社
- 相模ゴム工業株式会社
- ジェクス株式会社
- 株式会社たかくら新産業
- 株式会社TENGAヘルスケア
- 中西ゴム工業株式会社
- 不二ラテックス株式会社
- 持田ヘルスケア株式会社

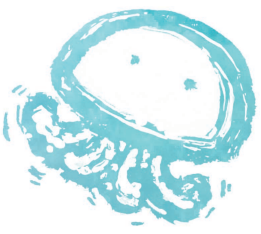
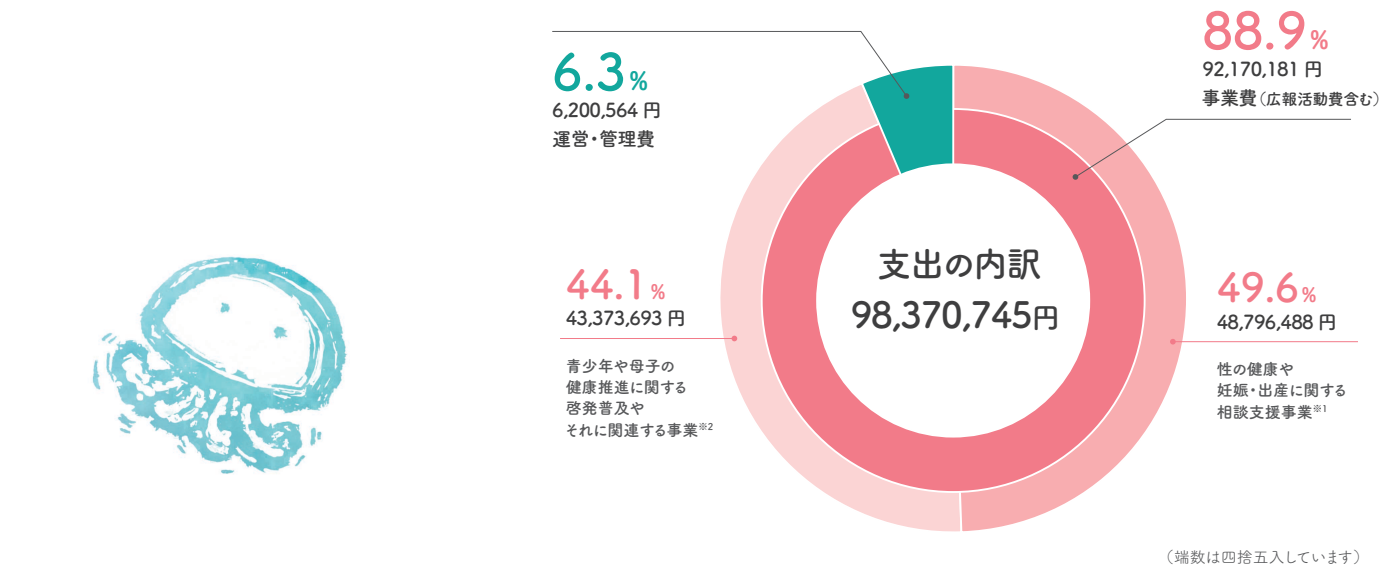
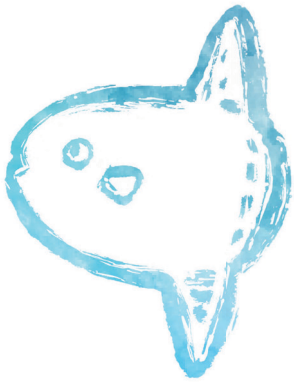
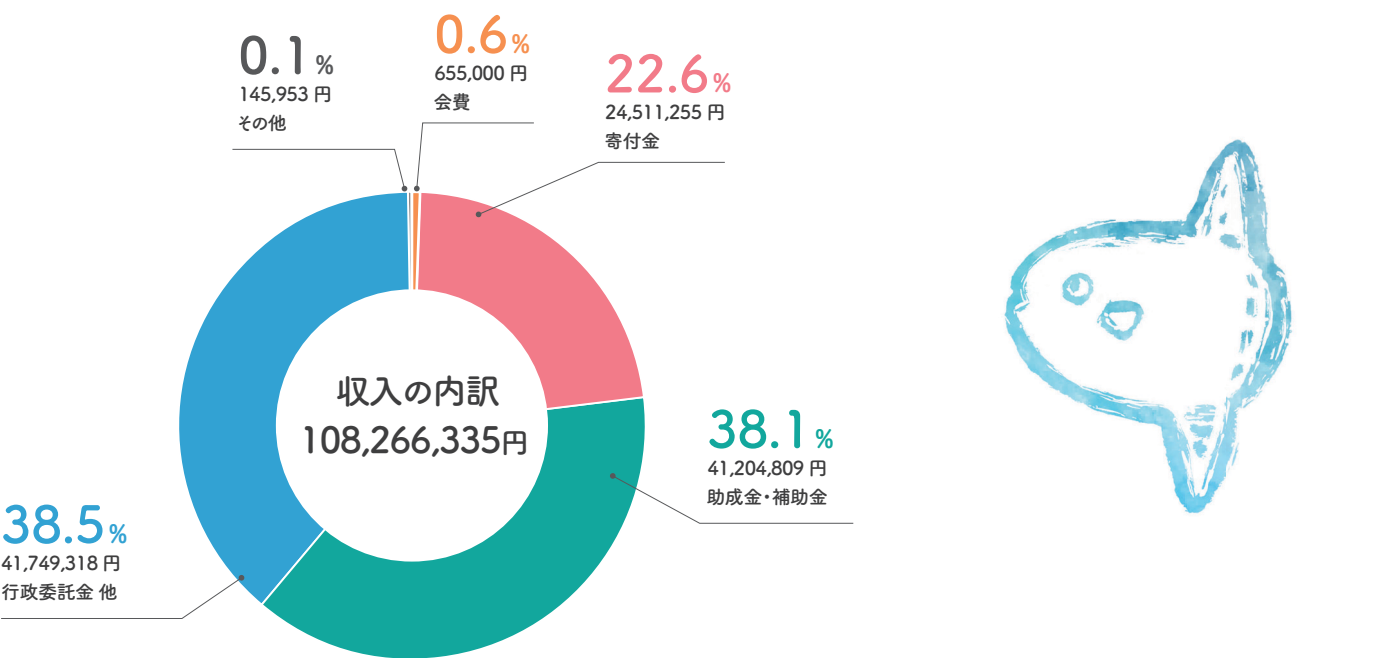
その他

- 日本生命プロボノプロジェクト（JPA 日本フィランソロピー協会）
- 一般社団法人つくろい東京ファンド（つながる電話・アンブレラ基金）



その他、Amazonウィッシュリストや物品のご支援もたくさんいただきました！





科目		金額
会費	正会員受取会費・賛助会員受取会費	655,000
受取寄付金		24,511,255
受取助成金等	受取助成金・受取補助金	41,204,809
事業収益	性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業収益	35,963,522
	青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業収益	5,785,796
その他の収益	受取利息・雑収入	145,953
経常収益 計		108,266,335
事業費	人件費	66,165,183
	その他諸経費	26,004,998
	事業費 計	92,170,181
管理費	人件費	2,000,926
	その他経費	4,199,638
	管理費 計	6,200,564
経常費用 計		98,370,745
当期経常増減額		9,895,590
経常外収益		0
経常外費用		0
税引前当期正味財産増減額		9,895,590
法人税・住民税及び事業税		70,000
前期繰越正味財産額		9,451,476
次期繰越正味財産額		19,277,066

2022年度ピッコラーレは、「妊娠葛藤相談窓口」「中絶後の相談窓口」「安心できる居所のない妊産婦のための居場所」「ピコの保健室」「びこカフェ」等の支援現場を運営しながら、「妊娠葛藤」を生み出す社会構造にも目を向け、制度レベルで変革を促すための政策提言活動や、支援者・一般市民向けに、課題の理解を深めるための講演・研修など啓発活動も活発に行いました。

財源の多くを助成金等に頼る状況が毎年続いています。各事業が安定的な運営や現場のニーズに応える新しい活動を可能にするために、自主財源（皆さまからのご寄付や研修等の自主事業）の強化に取り組み始めています。22年度は、「クラウドファンディング」の実施、「認定NPO法人の取得」を実現しました。23年度は継続支援者「ピコサポ」として仲間になってくださる方を増やすための活動や、研修事業の発展に力を入れていきます。

※1 性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業：相談支援、研修・啓発、調査研究・政策提言
※2 青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業：居場所事業

ご支援のお願い

ピッコラーレは、2022年12月に認定NPO法人になりました。認定NPO法人ピッコラーレへのご寄付は、「寄付金控除」の対象になります。

ピッコラーレの活動は、皆さまのご支援に支えられています。「『にんしん』をきっかけに、だれもが孤立することなく、自由に幸せに生きることができる社会」の実現に向けて、広報やご寄付等での応援、どうぞよろしくお願いします。

寄付をする 妊娠で孤立しない社会をつくるために、サポーターとしてピッコラーレの活動に参画してくださる方を募集しています。

マンスリーサポーター制度『ピコサポ』

毎月の継続的なご支援です
1,000円、2,000円、3,000円、5,000円、10,000円、30,000円
の6種類から選べます。



マンスリーサポーターの登録は、クレジットカード決済のみとなります。

都度のご寄付 いつでもご寄付いただけます。

ご寄付の方法



クレジットカード

各種クレジットカードをご利用いただけます。



<https://piccolare.secure.force.com>
※マンスリーサポーター、クレジットカード、賛助会員すべて共通です。

郵便振替

口座番号：00130-0-515041
口座名義：トクヒピッコラーレ

お振込

ゆうちょ銀行
記号：00130 番号：515041

※他行よりお振込みの場合
店名 ○一九(019)
当座 0515041
特定非営利活動法人ピッコラーレ

※お振込にてご寄付いただいた方は、お手数ですが、お名前、電話番号、郵便番号、住所のご記入をお願い致します。お礼のご連絡や活動の報告をさせていただきます。

賛助会員になる

わたしたちの活動にご賛同頂き、継続的に参加・協力・支援くださる賛助会員を募集しています。

賛助会員年会費

個人 一口 5,000円
団体 一口 50,000円



その他の支援方法

つながる募金



ソフトバンクの寄付サービス。携帯電話利用料金やTポイントのお支払いと一緒にご寄付いただけます。

ありがとうブック



ご不用になった本・DVD・CD・ゲームなどをお送り頂くことで、支援できる仕組みです。

お宝エイド



書籍を買う



妊娠葛藤白書
ーにんしんSOS東京の現場から 2015-2019ー

NPO法人ピッコラーレ



漂流女子 —
にんしんSOS東京の相談現場から

朝日新書
著者 中島 かおり

